



第30回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー2

「糖尿病とくらす、糖尿病と生きる」ための 個別化医療

2025年9月20日(土) 12:00～13:00 第2会場 つくば国際会議場 1F 大会議室 101+102

座長

学校法人 関西医科大学 看護学部・看護学研究科

教授

瀬戸 奈津子 先生

演者

福島県立医科大学 糖尿病内分泌代謝内科学講座

教授

島袋 充生 先生

※現地会場でのご参加には、本学術集会のオンライン参加登録が必要です。以下より、参加ご登録をお願いいたします。

<https://square.umin.ac.jp/jaden30/registration.html>



「糖尿病とくらす、糖尿病と生きる」ための個別化医療

座長：学校法人 関西医科大学 看護学部・看護学研究科
教授

瀬戸 奈津子 先生

演者：福島県立医科大学 糖尿病内分泌代謝内科学講座
教授

島袋 充生 先生

糖尿病の分野で、個別化医療の重要性が指摘されて久しい。糖尿病をもつ方は臨床的特徴、病態、合併症の発生様式、治療反応性が個々に異なるため、これらをすべて考慮しながら、最適な医療の結果がえられるよう、本人と医療者双方で共同意志決定することが求められる。これを、個別化医療と呼ぶ。

糖尿病治療の目標は、血糖、血圧、脂質の良好なコントロール、適正体重の維持、禁煙の遵守（包括的リスク管理）により、糖尿病合併症の発症、進展を阻止し、糖尿病のない人と変わらない寿命と日常生活の質（QOL）の実現を目指すことである。包括的リスク管理をすみやかに始め、継続すれば、多くの場合、糖尿病合併症の発症や進展が抑制できる。高齢化により増加するサルコペニア・フレイル、認知症、悪性腫瘍、心不全・心房細動などの併存疾患にも注視する必要がある。糖尿病をもつ人がもたない人と変わらない寿命とQOLを実現するためには、これら合併症・併存症を同時に予防・管理することが求められる。

一方、糖尿病をもつ方は、スティグマを持つことがあり、社会的不利益、差別を経験することがある。福島医大を含めた多国籍共同研究で、2型糖尿病をもつ方の68%から89%が何らかのスティグマを有し、世界共通の課題であることがわかっている（Holmes-Truscott, Shimabukuro et al. Diabetic Med, 2025）。

「糖尿病とくらす、糖尿病と生きる」とは、糖尿病に起因するあるいは関連する合併症・併存症の不安・恐怖・スティグマを漠然と感じながらも、これらを克服するための絶え間ない^{いとな}営みをつづけることでもある。

ひとりびとりの合併症・併存症を適切に予測し、それぞれに応じたtailor-madeなリスク管理による予後予測ができれば、不安・恐怖・スティグマを大きく軽減できるかも知れない。本セッションでは「糖尿病とくらす、糖尿病と生きる」ための個別化医療について考えたい。

ー アークレイからのお知らせ ー

LINE公式アカウント「検査のアーレイ（医療従事者用）」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アーレイから発刊している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

